

# 熊井の森通信

発行/熊井の森トラスト基金

〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町  
楓ヶ丘2-2-1 かわせみハウス  
NPO法人はとやま環境フォーラム気付  
メール kawasemi3001@gmail.com

☎049-227-3001 FAX 049-227-3068 ホームページ <https://hatoyama.info/>

## 10月・11月の活動予定

### ■第21回エコフェスタ比企in鳩山 10月25日(土)

**第21回**  
比企丘陵の自然と文化と人々の暮らしを考える  
**エコフェスタ比企 in 鳩山**  
10月25日(土) 9時30分～14時  
会場 かわせみハウス前(楓ヶ丘2丁目)



- ・掘り出し物バザー・菓子
- ・パンケーキ・有機野菜
- ・手作り小物雑貨・花苗
- ・新刊本古本市
- ・「熊井の森」写真展




出展者募集中  
どなたでも どうぞ  
ご連絡ください

運営/エコフェスタ比企実行委員会  
主催/NPO 法人はとやま環境フォーラム 電話 049-227-3001

年2回開催のエコフェスタも、今回で21回目。前回好評だったハト麦パンケーキの新作販売に加えて、熊井の森こもれびファームの仲間が栽培した無農薬野菜の頒布や、ブルーシートでのフリーマーケットと自治会バザーもあります。出店協力金400円。皆さんもぜひご出店を。

### ■第2回冬水田んぼピオトープづくり 10月11日(土)

石場沼下の谷津にある休耕地のピオトープづくりです。前回は葛(クズ)の草刈り。今回は、その仕上げと底面の根っこ掘り起こし。先日、U字溝の用水路にはまってしまった吸盤のないカエルの救出装置の試作品が完成。これで成果があれば、生態系回復に貢献大と期待したいところ。カエル救出作戦に協力いただける方は、ご一報ください。

### ■第3回ウッドデッキづくり会議 10月13日(月)

7月の理事会で、当団体の活動として承認され、「熊井の森こもれび倶楽部」の楽しみのひとつとして、ウッドデッキづくりをいよいよ始めます。とは言っても、施工資金をどうするか、クラウドファンディングを利用するか、など話し合うべき事項がいくつかあります。ウッドデッキづくりに興味のある方は、午前10時にかわせみハウスにお越しください。

### ■第46回はとやま祭で「熊井の森ジオラマ」展示



11月3日(文化の日)、鳩山町恒例のはとやま祭に、当団体も出店します。活動紹介パネル展示やリユースコーナー、ハト麦パンケーキの販売などのほか、テント内に「熊井の森ジオラマ」(写真は2022年11月SATOYAMA写真展)を制作して、里山の雑木林の雰囲気と生きものたちに思いをはせてもらうべく準備中です。制作協力者募集中。

### ■かんちゃんファームで芋掘りイベント 11月8日(土)

今年も無農薬野菜づくりに取り組んでいる「かんちゃんファーム」で安納芋掘りをして、お昼には石窯で焼いたピザを味わってもらいイベントを開催。お知り合いへのお声かけをよろしく。詳細はじゃらん「遊び・体験」で検索を。

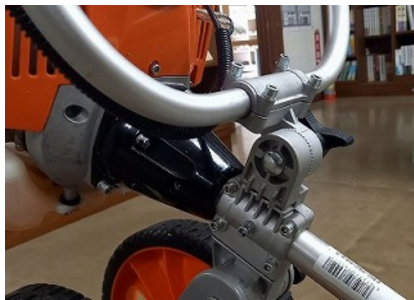
## 10月・11月 活動スケジュール

10月 5日(日)	午前8時～	資源回収
〃	午前9時～	写真学校
11日(土)	午前9時～	ピオトープづくり
13日(月)	午前10時～	ウッドデッキ会議
19日(日)	午前9時～	観察会
〃	午後1時半～	理事会
25日(土)	午前9時半～	エコフェスタ比企
〃	午前10時～	活動パネル展示(狭山市)
11月 2日(日)	午前8時～	資源回収
3日(月)	午前9時～	はとやま祭・文化祭
8日(土)	午前9時～	芋掘り体験
16日(日)	午後1時半～	大人の学校
24日(月)	午前9時～	石場沼下休耕地草刈り



## 9月の活動報告

### ■不具合草刈機の部品が交換をされ返却 9月5日(金)



8月19日、メーカーのサポートセンター担当者から「現品の確認をした上で改めて対応をご連絡します」と回答があり、9月8日、「製品現物のハンドル固定部分のみを新仕様の部品に無償交換する」との回答が届き、部品交換した現物が返却されてきました。

早速、試し運転。ハンドルのぐらつきはなくなりましたが、かみ合わせ歯が摩耗したり、ゆるんだりすることがないかをモニタリングしていきます。いずれにしても、使い道は平坦な場所に限定され、畝と畝の間の草刈りなどがよさそうです。

### ■ビオトープ作業で葛の刈取り 9月14日(日)



作業参加者5人で、ビオトープづくりの初仕事。葛の刈取りは地面がぬかるんで足場が悪く大変でした。1日では終わりそうになく、とりあえず、刈り取った葛はまとめて積んでおいて、



次回に運び出すことに。若手がひとりいて助かりましたが、後期高齢者は30分も作業をしたらヘトヘトで、早々に1時間ちょっとばかりで終わりました。カエル救出装置の試作品(写真)が出来上がりました。筒状の雨どい(長い筒)をU字溝の側面に設置して、用水路に落ちた足に吸盤のないカエルに筒の表面を登って脱出してもらおうというものです。40カ所ほど設置する予定で、上手いけば格好の救出装置になるでしょう。地元の水利組合にも説明に行ってきます。

### ■今年の第1回はと麦の半分を刈取り 9月16日(火)

ハト麦の生育には茎ごとに、黒く実ったものやその途中の緑色のもの、それと実が入らなかった白い粒とが混在しバラツキがあるのですが、それにしても生育が悪い。これ以上待っていても黒くなるのを期待できないと判断し、作付けの半分ほどを刈り取ることにしました。

例年は、ハト麦は2m以上になるのですが、今年は1



mにも満たない感じで、茎の長さが1~1.5mの残りの半分(約30株 1株に3~5本の茎)はもう少し様子を見てから刈り取ります(写真右)。刈り取った茎は仲間の自宅で天日干ししていて、緑色の粒が白くなるのか、黒く

実るのか、そのまま枯れてしまうのか観察中です(写真左)。生育不良の原因ははっきりしません。異常な暑さのせいか、作付け時期を間違ったのか、土壌とハト麦の相性が悪いのか。この経験を来年の作付けに生かしたいものです。

### ■草刈り、草刈り、そして草刈り 8月30日(土)~

8月30日は共同菜園1号地の畑まわりの草刈りと共同菜園2号地の通路部分の草刈り。隣の空き地に積んである切り株を使っていいよ、と地主さんが了解。感謝。9月4日、野鳥観察舎に向かう道路とその前の休耕畑の草刈り。9月18日、手押し式草刈機の試運転を兼ねて共同菜園2号地(ちょっくま上)の通路部分を草刈り。9月20日、翌日の定例観察会のため石場沼下の活動駐車場の草刈り。9月は草刈り月間でした。

### ■協生農園も草刈り 9月17日(水)

栽培中の作物が野生動物(イノシシ)に荒らされ、栽培している作物がなかったことや、熱中症を避けるためなどで、7月末から草刈りをしていなかったため、農園一面が50cm程の雑草に覆われていました。そのため、土手部分の草刈りと農園全体の4分の1程度を草刈りし、設置してあった棚とネットを片づけ、来年に備えました。

### ■竹炭づくりのための竹の切り出し 9月24日(水)

会員の方が「竹炭づくりをしたい」とのことと、竹の切り出しをお手伝いしました。

お煎餅なんかが入っていた金属缶に、短く切った竹を数本入れて、ピザを焼く石窯で蒸す



と、簡単に竹炭が仕上がるそうです。竹炭はいろんな使い道があって、けっこう人気です。熊井の森には竹はふんだんにあり、量産できれば、切り出した竹の有効利用になるかもしれません。ノウハウをお持ちの方、興味のある方はぜひご一報ください。



## 9月の活動報告

### ■栗ひろいイベントに11家族23人参加 9月28日(日)

まだ夏の蒸し暑さが少し残る、曇り空。ますますの天気。鳩山町周辺の方や、遠くは東京都の目黒区や北区から来られた方々が熊井の森麓の栗林に、大人17名小人6名の11家族が集まりました。その中の3組が、なんと、電車とバスを利用して来てくれたことにはちょっと感激。また、11家族中6家族がリピーター参加ということも、今回の特徴でした。

食育教育事業として地元の農産物収穫企画を始めて4年目の今年、「以前参加して楽しかったので、また参加した」と言う方が増えてきたのはうれしいかぎりです。

「栗ひろい体験」をイベントとしてやっているところは関東ではあまりないようで、こどもに栗ひろい体験をさせたくて、ネットで探してようやく見つけた、と言う親御さんもいました。幼い子たちはイガから実を上手に取

り出してはキャーキャー声をたて、時折、高い枝から、バーン、ドーンと熟した栗の実が落ちて来てびっくりするのも、自然感があって良かったとの感想がありました。

石造りのピザ窯の前では、汗だくのスタッフが、こんがりと具合良くピザを焼いていましたが、お父さんもピザ焼きに挑戦



して、子どもが団扇で火お越しする光景は微笑ましく、これぞ、望んでいた食育イベントの一コマでしょう。

反省点は、午後の山歩き散歩が中途半端だったことです。狭い道に子どもを抱っこした親が歩くのはちょっと無理で、散歩の途中で戻られた家族もいて、散策路の整備が急がれることを実感。生きもの解説ももっと工夫が必要です。「次の企画は、11月に安納芋堀り&ピザだよ」と声掛けしながら、解散。スタッフのみなさんご苦労さまでした。(嵯峨)



## 「居場所」としての里山を考える

「里地里山」は集落とそれを取り巻く二次林や農地・ため池・草原などが混在する地域であり、人による伐採・採取・火入れなどの適度な攪乱(人の介在)によって、そこに生きる生物の多様性がいっそう高められている地域のこと。(環境庁HPより)

そうした自然を守りたいから里山保全の活動に関わるのとは別に、「居場所」づくりとして里山づくりに関わる道筋もあるのではないかな。

居場所づくりと言うと、一般に、不登校児やひきこもり、ニート、中卒や高校を中退した若者、職場・家庭に居づらい状況の人のために、各自治体が所有する公民館・青少年センター等のスペースを“第3の居場所”(サードプレイス)として一定時間開放する取り組みを指すらしい。そして、居場所の定義も、「自分の存在を実感できる場所」「安心感があり、自分がありのままでいられる場所」「自分の能力や役割を発揮できる空間」と様々だが、居場所を求めているのは若者たちだけではない。

例えば、全国から郊外の新興住宅団地に移住し家庭を持ち、子育てをしてきた者には、団地が1stステージと

しての「居場所」だったろう。しかし、子育てを終え、定年を迎えたあとはどうするか。終の棲家として老後をそこで暮らすか、もう一度暮しに便利な都会に戻るか、子供に引き取られ別の場所に引っ越すか、あるいは、もっと自然の豊かな地方に移住するか。その選択が迫られる。

そのとき、生活空間が

デベロッパーによって予

めデザインされている団地暮らしとは異なる、もうひとつの選択肢が「里山」である。里山という掴みどころのない、しかし、温かみのある自然の中で、生まれも育ちも、国籍も年齢も違う人々が、相手を認め合いながら里山づくりという一つの目標に向かって一緒に仕事をする。そこでは達成感・充実感が味わえ、地域の活性化にもなる。まさに人生の2ndステージにふさわしい空間がそこにある。



▲武内和彦・鷺谷いつみ・恒川篤史編  
めデザインされている団地「里山の環境学」(東大出版会)より



## ささやかな郷愁を誘う「藜」（アカザ）



秋の代表的な植物にはススキ・萩・彼岸花などたくさんありますが、もう一つあまり注目されていない植物があります。それは「藜」（アカザ）です。

藜の若葉の表と裏を触ってみると、細かい粉がたくさん付いていて、すべすべしています。茎の部分は縦の筋があり、秋になると木質化し、実用性に富んでいます。たとえば、可燃性が良いため、古代の読書人はそれを燃やして照明にしていたようです。また、適当な高さ（1m以上）と軽さと丈夫さがあるため、古代においては杖としても大変活躍していたようです。

中国の詩文には「藜杖」または「杖藜」という言葉がよく出てきます。もともと清貧な暮らしを指していましたが、後に隠遁生活の象徴になり、唐代の著名な詩人・杜甫は漢詩の中で「明日看雲還杖藜」（明日は藜の杖をついてまた雲を見に行くという意味）と詠んでいます。

子どもの頃には、おばあちゃんと一緒に藜の若葉を採ってきてお浸しにして食べていた記憶があります。若葉は食用にも向いているので、中国では「灰灰菜」とも呼ばれます。日本の江戸時代には野菜として栽培された歴史もあったようですが、今では正真正銘のごく普通の雑草になってしまいました。昨年、自宅の庭に自生していた藜の茎を採ってきて玄関脇に飾ってみました、見かけるたびにささやかな郷愁を感じます。（王 菲）

# 森の中へ

自然にふれ、生きものから学ぶ月例散策便り ①⑨

## セイタカアワダチソウにそっくりのタコノアシ



熊井の森周辺の田んぼや休耕田には色々な貴重な生き物が生息していて、その中に「タコノアシ」という植物があります。

タコノアシはタコノアシ科の多年草で、河川下流域・河口域の湿地、水田周辺などの湿った場所に生育していたのですが、そういった環境がなくなりつつあるため数を減らし、国及び埼玉県レッドリストでは準絶滅危惧種に指定されています。

長期的な生息環境の維持にはセイタカアワダチソウやツルマメ、チガヤ、オギ、ヨシなどを定期的に除草する必要があります。とはいっても、土の中に多くの種を残しているため、環境が良くなれば比較的復活も早い植物でもあります。

見た目の特徴としては秋になると赤く色づき、花が咲いていた場所が名前の通り“茹でダコ”の足のように見えます。花が咲けばとても特徴的な植物なのですが、若いうちはセイタカアワダチソウそっくりで、しかも同じような場所にごちゃまぜに生えているため、慣れていないとセイタカアワダチソウを抜いているはずが間違えてタコノアシを抜いてしまうなんてことも。現在づくり途中の田んぼビオトープにもぜひ生えてきてほしい植物の一種です。（愛場 結偉）

**活動後記** ■9月21日 理事会で今後の活動方針（持続可能な環境保全活動の基盤づくりのための財政と共同作業者の確保策）について議論。しかし、若い先短い高齢者（理事たち）が5年後、10年後を語ることの空虚さ、それでも、あえて未来を語るの意味、個人の寿命と組織の寿命の違い、そもそも未来永劫存続することを前提にした議論は成り立たないのではないか。ではなぜ活動に関わるのか。そんな重たいが避けて通れないことを話し合わざるを得ず、歯切れの悪い会議に。まずは3年計画を、と次の理事会で改めて議題にすることになった。■9月29日 石場沼下の休耕田1130㎡の使用承諾書が地主さんから届く。毎年、奥武蔵マウンテンバイク友の会と一緒に地元で協力して草刈りをしている場所だ。これからは自分たちの責任で草刈りをするに。できれば、ハト麦の栽培場所として活用し、熊井における里山づくりの新展開のきっかけになることを期待したい。

## 定例観察会 のご案内

開催日 : 毎月第3日曜日  
集合場所: かわせみハウス前  
集合時間: 午前8時半  
(終わりは午前10時ごろ)

**9月・10月は午前中の実施に変更!**

興味のある方はどうぞお気軽にお越しください。鳩山ニュータウン内かわせみハウス前に8時半に待ち合せて、相乗りで熊井の森に向かい、帰りも一緒できます。

はとやま環境フォーラムHP➡

